



## E コマンド

---

この章では、E で始まる Cisco NX-OS Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) コマンドについて説明します。

# eigrp log-neighbor-changes

Enhanced IGRP (EIGRP) ネイバルータとの隣接関係での変更のロギングをイネーブルにするには、**eigrp log-neighbor-changes** コマンドを使用します。EIGRP 隣接ルータとの隣接関係における変更のロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp log-neighbor-changes**

**no eigrp log-neighbor-changes**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

隣接関係の変更がロギングされます。

## コマンド モード

アドレスファミリ コンフィギュレーション モード  
ルータ コンフィギュレーション モード  
ルータ VRF コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**eigrp log-neighbor-changes** コマンドを使用してネイバルータとの隣接関係の変更をロギングし、ルーティングシステムの安定性をモニタし、問題を検出します。デフォルトでは、ロギングはイネーブルです。隣接ルータとの隣接関係の変更のロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

このコマンドには、LAN Base Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、EIGRP プロセス 209 のネイバー変更のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp log-neighbor-changes
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>log-adjacency-changes</b>	EIGRP 隣接状態変更のロギングをイネーブルにします。
<b>log-neighbor-changes</b>	EIGRP ネイバーの変更のロギングをイネーブルにします。
<b>log-neighbor-warnings</b>	EIGRP ネイバーの警告のロギングをイネーブルにします。

# eigrp log-neighbor-warnings

Enhanced IGRP (EIGRP) ネイバーの警告メッセージのロギングをイネーブルにするには、**eigrp log-neighbor-warnings** コマンドを使用します。EIGRP ネイバー警告メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp log-neighbor-warnings** [*seconds*]

**no eigrp log-neighbor-warnings**

## 構文の説明

<i>seconds</i>	(任意) ネイバー警告メッセージの反復間隔。有効範囲は 1 ~ 65535 です。
----------------	-------------------------------------------

## コマンド デフォルト

ネイバー警告メッセージがロギングされます。

## コマンド モード

アドレスファミリ コンフィギュレーション モード  
ルータ コンフィギュレーション モード  
ルータ VRF コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**eigrp log-neighbor-warnings** コマンドを使用してネイバーの警告メッセージをイネーブルにし、繰り返されるネイバー警告メッセージ間の間隔を設定します。

このコマンドには、LAN Base Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、EIGRP プロセス 209 のネイバー警告メッセージがログに記録され、5 分 (300 秒) 間隔で警告メッセージが反復される例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp log-neighbor-warnings 30
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>log-adjacency-changes</b>	EIGRP 隣接状態変更のロギングをイネーブルにします。
<b>log-neighbor-changes</b>	EIGRP ネイバーの変更のロギングをイネーブルにします。
<b>log-neighbor-warnings</b>	EIGRP ネイバーの警告のロギングをイネーブルにします。

# eigrp router-id

Enhanced IGRP (EIGRP) がネイバーと通信する際に使用するルータ ID を設定するには、**eigrp router-id** コマンドを使用します。設定されたルータ ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp router-id ip-address**

**no eigrp router-id ip-address**

## 構文の説明

*ip-address* ルータ ID (ドット付き 10 進表記)

## コマンド デフォルト

EIGRP は、EIGRP プロセスが開始されたときにルータ ID として使用する IP アドレスを自動的に選択します。

## コマンド モード

アドレスファミリ コンフィギュレーション モード  
ルータ コンフィギュレーション モード  
ルータ VRF コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

EIGRP は、EIGRP プロセスが開始されたときにルータ ID として使用する IP アドレスを自動的に選択します。最も高いローカル IP アドレスが選択され、ループバック インターフェイスが優先されます。EIGRP プロセスが **no router eigrp** コマンドによって削除されない限り、またはルータ ID が **eigrp router-id** コマンドによって手動で設定された場合、ルータ ID は変更されません。

**eigrp router-id** コマンドを使用し、EIGRP にルータ ID を手動で設定します。ルータ ID は、外部ルートの発信元ルータを識別するために使用されます。外部ルートがローカルのルータ ID で受信された場合、このルートは廃棄されます。ルータ ID は、2 つの例外を除く任意の IP アドレスによって設定できます。0.0.0.0 と 255,255,255,255 は有効な値ではなく、入力できません。各ルータに一意の値を設定する必要があります。

このコマンドには、LAN Base Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、固定されたルータ ID として 172.16.1.3 を設定する例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp router-id 172.16.1.3
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip eigrp</b>	EIGRP プロセスの要約を表示します。

# eigrp stub

ルータを Enhanced IGRP (EIGRP) を使用するスタブとして設定するには、**eigrp stub** コマンドを使用します。EIGRP スタブ ルーティングをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp stub** [**direct** | **leak-map** *map-name* | **receive-only** | **redistributed**]

**no eigrp stub** [**direct** | **leak-map** *map-name* | **receive-only** | **redistributed**]

## 構文の説明

<b>direct</b>	(任意) 直接接続されたルータをアドバタイズします。
<b>leak-map</b> <i>map-name</i>	(任意) リーク マップに基づいて、ダイナミック プレフィックスを許可します。
<b>receive-only</b>	(任意) ルータを受信専用のネイバーとして設定します。
<b>redistributed</b>	(任意) 他のプロトコルと Autonomous System (AS; 自律システム) から再配布されたルータをアドバタイズします。

## コマンドデフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

アドレスファミリー コンフィギュレーション モード

ルータ コンフィギュレーション モード

ルータ VRF コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**eigrp stub** コマンドは、すべての IP トラフィックを配信ルータに転送するスタブとしてルータを設定するために使用します。

**direct** キーワードを指定すると、EIGRP スタブ ルーティングは接続されたルータをアドバタイズできます。このオプションは、デフォルトでイネーブルです。

**receive-only** キーワードは、ルータが EIGRP AS 内の他のルータとルータを共有しないように制限します。**receive-only** キーワードは、あらゆるルート タイプを送信しないようにするため、他のオプションを指定できません。

**redistributed** キーワードを指定すると EIGRP スタブ ルーティング機能は他のルーティング プロトコルと AS を送信できます。このオプションを設定しないと、EIGRP では再配布されたルータをアドバタイズしません。

これらの 4 つのキーワード (**direct**、**leak-map**、**receive-only**、**redistributed**) のいずれかを **eigrp stub** コマンドと同時に使用すると、特定のキーワードによって指定されたルート タイプのみがアドバタイズされます。

このコマンドには、LAN Base Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、ルータを受信専用ネイバーとして設定する例を示します。

## ■ eigrp stub

```
switch(config)# router eigrp 1  
switch(config-router)# eigrp stub receive-only
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip eigrp</b>	EIGRP プロセスの要約を表示します。